

て検討した。レノグラムから求めた K/B ratio, EI の数値単独では拒絶状態を評価することは、困難であった。膀胱出現時間は、拒絶時に遅延する傾向がみられた。臨床的にも拒絶の判断自体が難しい場合があり、腎シンチグラフィー所見は、移植腎の病的状態をよく反映している可能性があると思われた。腎シンチグラフィーにおいては、拒絶に注目するばかりでなく GFR, ERPF といった腎機能パラメータを、算出、検討することが重要と思われる。

17. I-131 MIBG シンチを施行した神経芽細胞腫 15 例の分析

小田野幾雄 山本 朋彦 木村 元政
酒井 邦夫 (新潟大・放)

1 歳から 9 歳までの神経芽細胞腫術後 8 例、術前 7 例の計 15 例に対して、I-131 MIBG シンチを施行した。尿中 VMA 陽性と I-131 MIBG の集積をみると 15 例中 7 例がともに陽性、7 例がともに陰性で両者はよく相関していた。原発巣の描出率は、副腎原発 6 例中 5 例、縦隔原発 1 例中 1 例で 86% であった。転移巣を含めた I-131 MIBG の神経芽細胞腫の描出率をみると、sensitivity 80%, specificity 100%, accuracy 87% であった。転移巣の陽性率をみると骨転移 86%, 骨髄転移 67% であり、骨転移の発見は骨シンチに及ばないものの骨髄転移の発見には有力な手段の 1 つになりうる。I-131 MIBG の集積した原発巣の最小径は約 1 cm (左副腎原発、石灰化あり) であった。

18. 後縦帯骨化症 (OPLL) の 1 例

——特に核医学的所見について——

一戸 兵部 (重症研厚生病院)
星 信 (弘前大・放)

44 歳、画家、尾上町在住。主訴、手の疼痛としびれ感のため筆が持てない。昭和 61 年 2 月、出稼で川崎市宮川病院整形外科で OPLL と診断され紹介されて来院した。当院内科で 6 年前からバセドウ病として加療中であった。バセドウ病 (甲状腺 ^{99m}Tc uptake 32.4%, T_3 358 ng/dl, T_4 16.1 $\mu\text{g/ml}$, TSH 2.0 $\mu\text{U/ml}$, TSH-R 抗体 (+), 結合阻害率 39.3%, マイクロゾームテスト 6,400) は 3

月 26 日甲状腺亜全摘術 (右 45 g, 左 42 g, 病理: Hyperthyroidism) を施行軽快した。OPLL は、X-P (側面) で頸椎 4・5 番椎管狭窄率 47%, 断層 X-P 38%, X 線 CT 椎管 (Cs) 独占率 25%。

骨シンチ (^{99m}Tc MDP) ピンホール使用陽性像を示し、 ^{67}Ga citrate, $^{201}\text{TlCl}$ にて表出不能。上行大動脈血流イメージング (上行大動脈部 ^{99m}Tc MAA 1 mg 動注診断法) で、OPLL 部に側面観察で陽性像が得られた。術後甲状腺機能の安定した昭和 61 年 10 月 6 日弘大整形外科で OPLL 根治手術施行軽快治癒した。頸椎 6 番、胸椎 5 番黄色靱帯、右肢関節部に異常化骨現象確認。

19. ^{99m}Tc -MDP の骨集積

——肺癌病巣に集積した 6 症例についての検討——

羽田 清隆 加藤 和夫 鈴木 晃
(福島医大・核)

星 宏治 木村 和衛 (同・放)
戸川 貴史 (千葉県がんセンター・核)

^{99m}Tc -リン酸化合物の原発性肺癌への骨外集積はまれだが、われわれは、1983 年 1 月から 1986 年 10 月までに福島医大核医学科で原発性肺癌で骨シンチグラフィーの施行された 256 例中 6 例に原発巣への集積を経験し、その集積機序について検討した。

原発巣の石灰化は画像診断上 6 例ともに認められなかったが、病巣内の壊死は画像上 4 例に疑われた。壊死の疑われた 1 例は手術が施行されて、病巣内に壊死巣があり、病理標本の Kossa 染色で壊死巣への微細な石灰化が見られたが腫瘍細胞への石灰沈着は認められなかった。

20. ^{131}I シンチグラフィー施行時の血清データ値の意義に関する検討

中駄 邦博 塚本江利子 川村 直之
藤森 研司 伊藤 和夫 古舘 正從
(北大・核)

1985 年 1 月以降、甲状腺全摘または亜全摘術後か ^{131}I により残存甲状腺組織の ablation をうけている甲状腺分化癌の転移・再発例 68 例 (89 回) に対して施行された tracer dose ^{131}I scintigraphy の検査時の血清データ値 (T_3 , T_4 , TSH, F- T_3 , PBI, T, I, Tg) について検討